

『中学時代に熱中していたこと』

R 4 . 7 . 5

第6号で広報委員会の「新しい先生紹介」の打合せについて紹介しました。

収録した対談の様子が本日お昼の放送で流されました。今日は私と1年担当国語科の先生の回。新しく赴任した先生についていろいろ話を聞いて、早く距離を縮めたいという気持ちが伝わってきます。

質問の一つが「中学時代に熱中していたことは何ですか?」というもの。真っ先に思い付いたのが「ものづくり」です。技術科の授業も大好きでしたが、美術の時間のものづくりも好きでした。

3年間美術を教わったのは、本校12代校長でもあるT先生です。ご本人に了解を得ていないので、お名前は伏せておきます。私が1・2年の時は学年の先生、3年の時は生徒指導主事をされていたと思います。

T先生の授業はいつも楽しみでした。担当されていた必修クラブ(今はありません)の楽焼クラブにも所属し、先生からものづくりを教わりました。

3年のもう受験が迫ってきている時期、「グライダーづくり」を課題に出されました。バルサ材という軽い木材を材料に翼を削り出し、胴体になる角材に輪ゴムで固定し、その位置をずらしながらうまく滑空するように試行錯誤するのが楽しくて仕方ありません。材料が足りなくなり福光の街中の模型屋さんに行っただことを覚えています。

昼休みになると(もしかしたら放課後かも)体育館やグラウンドに行って飛ばしていたので、担任の先生から「そんなことをしている場合か!」と叱られました。

真剣に叱ってくださる担任の先生も夢中になる課題を出してくださるT先生も大好きでした。

最近、T先生のことを当時同級生だった校長先生と話す機会があり、彼も真っ先にグライダーの話をしてくれました。そして、技術室の前で長い間グツグツ煮られていた牛の頭のこと。デッサン用の頭骨にするのだとT先生は言うておられました。とにかく臭かったことを覚えています。



日照り続きの中、環境ボランティア委員が水やり、草取りをしてくれたおかげで、がんばって咲いてくれています。